

第5回「アスマラの生活」

前回は、エリトリアに暮らす外国人全般について書きました。今回はアスマラでの生活がどのようなものか、お金と娯楽にまつわるトピックをご紹介します。

外国で生活するにあたって、両替は日常生活の一部です。外国を旅行されたことがある方はお分かりと思いますが、たいていの国では首都に両替所が無くて困るということはあまりありません。エリトリアの首都アスマラでは、2 - 3の大き目のホテルや銀行で両替ができますが、いわゆる両替所は公営のものが2軒しかありません(街が小さいので困りませんが)。ちなみに為替レートはこれらの場所のどこで両替しても同じで、1米ドルは13.5ナクファ(現地通貨)になります。ただし、在住外国人はこれらの両替所に行くことはほとんどありません。というのも、闇で両替してくれる人たちがたくさんいて、彼らに頼めば1米ドルが21 - 23ナクファになるからです。彼らはたいてい外国人の客が多いレストランなどの周辺に立っていて、こそっと「両替？」と聞いてきます。エリトリアでは警察の権力が絶大で、定期的にこういった闇両替商を片っ端から逮捕しているらしいので、彼らもかなりのリスクを負っています。あとは、小さな商店でも闇両替ができます。ただし、こういったところで両替するには、現地人の紹介が必要です。警察の回し者ではないということを示すためです。僕も行きつけの闇両替商があったのですが、今は同僚の一人と現金を交換しています。彼は現地通貨で給料をもらっていますが、インフレ率が高いので、現地通貨の必要な僕の外貨と闇レートで交換しているのです。

次に娯楽です。エリトリアには、先進国のように至れり尽せりの娯楽はありませんが、人々はそれなりに余暇を過ごしています。以前紹介したように、彼らはほとんど昼さえも外食をせずに昼休みに帰宅して食事するのですが、夕食後には大通りに出てきて喫茶店でお茶を飲んだりバーに行ってお酒を飲んだりします。喫茶店やバーはたくさんあり、それぞれ色々な種類のケーキ、お酒を売っています。街に出ない場合には親戚や友人を訪ねたり、テレビを見たり(国営放送が1局ですが)しています。あと、少し驚いたのですが、教育を受けている人たちは詩や物語を書くことが趣味にしていることもけっこうあります。外での娯楽が少ない分、こういった知的な趣味を持つ機会も多いのだと思います。僕も今知人から借りた小説を読んでいます。それは独立戦争に参加した女性兵士の葛藤を題材にしています。また大学生の友人が書いた詩をみせてもらったのですが、彼は若者の情熱や人生観などを英語で詩にしています。これらの作品を友人同士で交換しているようです。

最後に対照的な娯楽の例を一つ。アスマラ郊外には高級ホテル、インターコンチネンタルがあります。これはかつて前アメリカ大統領クリントン夫人、ヒラリーさんがエリトリアを訪れるという予定を「十分な施設が無い」という理由で中止したことがあるようなのですが、これに対するエリトリア政府の即座の対応として誘致、建設されたらしいです。客の多くは外国人ですが(滞在客は多くなく、ほとんどがジムの会員)、ホテル内のバーやナイトクラブではちょっと見栄を張りたいアスマラの人たちが外国人に混じって夜を過ごしているようです。

次回はエリトリア人が見る「日本」をご紹介します。

(森下義亜)